

6 ^{かんのんじほんまいせき しゅつどひん} 観音寺本馬遺跡出土品 562点 [有形文化財（考古資料）]

（縄文土器 267点、石器 227点、土製品 31点、漆塗り木製品 5点、人骨・歯等其他資料 32点）

[所在地] 橿原市畝傍町1番地 奈良県立橿原考古学研究所

[所有者] 奈良県

[出土地] 橿原市観音寺町・御所市本馬

[時代] 縄文時代晩期

[概要]

観音寺本馬遺跡は、橿原市観音寺町・御所市本馬に位置する縄文時代から中世の遺跡である。京奈和自動車道建設に伴う発掘調査で縄文時代晩期の集落が確認された。

検出された遺構には、建物・石組炉・土壙墓・土器棺墓・土器溜まりなどがある。建物は平地式建物のほか、直径 60cm 前後の大型柱を用いた建物がある。建物群と混在して土壙墓や土器棺墓が検出され、人骨が比較的良好な状態で出土した。人骨の分析により埋葬人数・年齢・性別・歯牙加工・疾患痕跡のほか、埋葬姿勢および合葬や追葬の状況が明らかになった。土器棺内からは幼児の頭蓋骨、下顎骨、四肢長骨が出土し、再葬が行われたこと示している。このように縄文時代晩期の集落の構造や建物の形状や配置、葬送に関する風習を明らかにするうえで多くの材料が得られた。

出土した遺物には、縄文時代晩期中葉の深鉢・浅鉢・ミニチュア土器・搬入土器などの土器類、土偶・玉などの土製品、石鏃・楔形石器・石棒・石刀・磨石・凹石などの石器類がある。土偶はふくらはぎの筋肉を表現し乳房の表現がないことから男性を象った可能性がある。人骨は叉状研歯・斜状研歯などを含み、縄文時代晩期では県内初の事例である。特に斜状研歯は、近畿地方では大阪府国府遺跡に次いで2例目という稀少な資料である。本遺跡から出土した多量の遺物群は、西日本における縄文時代晩期の標識的資料として評価できる。



土器棺集合写真



土偶